女兒に対する性的行為シナリオへの容認態度と児童ポルノコミック利用との関連

○池間愛梨¹・滝口雄太¹・入山茂¹・桐生正幸²

(¹東洋大学大学院・²東洋大学)

キーワード：児童ポルノコミック・子どもに対する性犯罪・犯罪心理学

The Relationship between the Acknowledgment of Sexual Acts with Girls and Child Porno Comic Use.

Airi IKEMA¹, Yuta TAKIGUCHI, Shigeru IRIYAMA¹ and Masayuki KIRIU^{2,*}

(¹ Graduate School of Sociology, Toyo University, ² Toyo University)

Key Words: Child porno comic, Child molestation, Criminal psychology

目 的

近年、児童ポルノ犯罪対策への問題意識が強まっており、多くの研究が行われている。ただし、児童ポルノに類する創作物に関する実証的研究はほとんど行われていない。本研究では創作物の中でも特に購入が容易であるマンガ（以下、児童ポルノコミック）に焦点をあて、児童ポルノコミックの利用と女兒に対する性的行為の容認態度との関連を検討することを目的とした。具体的には、参加者に女兒に対する性的行為に関する4つのシナリオを呈示し、それぞれの程度容認できるかを回答してもらうことで容認態度を計測し、児童ポルノコミックの利用経験との関連を検討する。

方 法

参加者 大学生248名（男性86名、女性161名、不明1名、平均年齢20.71歳、 $SD=1.17$ ）を出来事条件群（シナリオの内容が実際に起きた出来事であるとして呈示する条件）、マンガ条件群（シナリオの内容がマンガで描かれたものであるとして呈示する条件）、アダルトビデオ条件群（シナリオの内容がアダルトビデオで描写されたものであるとして呈示する条件）の3群に分けた。その結果、出来事条件群は88名、マンガ条件群は80名、アダルトビデオ条件群は80名であった。

シナリオ 13歳未満の児童の姿態が描かれた児童ポルノコミック220作について等質性分析およびクラスター分析を用いて分類を行った結果、「恋愛関係」群、「ロリコン」群、「先生」群、「暴行」群の4つが抽出された。この結果を元に、女兒に対する性的行為に関する4つのシナリオを作成した。①恋愛関係シナリオ：恋愛関係シナリオ：男性と女兒が恋愛関係にあり、合意の上で性交を行うシナリオ、②ロリコンシナリオ：ロリコンであると自認している男性が妹に対して性交を行うシナリオ、③先生シナリオ：男性教師が生徒である女兒に対して性交を行うシナリオ、④暴行シナリオ：男性が面識のない女兒に対して強引に性交を行うシナリオ。すべてのシナリオにおいて男性は25歳前後とし、男性は女兒が13歳未満であると知っていることを明記した。

調査手続き 本研究は事前に東洋大学研究倫理委員会の承認を得て実施された。また、調査開始前に本研究は性的な内容を含むこと、調査への協力は自由意志によること、個人情報保護などに関して説明を行い、同意を得られた参加者へのみ調査を行った。

参加者にはシナリオごとに「容認できる」から「容認できない」までの5件法で回答をもとめた。また、13歳未満の児童の姿態が描かれた児童ポルノコミックの利用経験の有無について2件法で回答を求めた。

結 果

各シナリオにおける女兒に対する性的行為の容認態度を従

属変数、条件群×児童ポルノコミックの利用経験の有無を独立変数とした2要因分散分析を行った結果、恋愛関係シナリオでは児童ポルノコミックの利用経験の主効果のみ有意であった（ $F(5, 242)=24.99, p<.001, \eta^2=.09$ ）。ロリコンシナリオでは、児童ポルノコミックの利用経験（ $F(5, 242)=26.73, p<.001, \eta^2=.08$ ）、条件（ $F(5, 242)=28.30, p<.001, \eta^2=.17$ ）、交互作用（ $F(5, 242)=8.91, p<.001, \eta^2=.05$ ）が有意であった。単純主効果検定を行ったところ、アダルトビデオ群における児童ポルノコミックの利用経験の有無に有意差がみられた（ $F(1, 242)=41.21, p<.001$ ）。先生シナリオでは、児童ポルノコミックの利用経験（ $F(5, 242)=54.10, p<.001, \eta^2=.15$ ）、条件（ $F(5, 242)=32.18, p<.001, \eta^2=.18$ ）、交互作用（ $F(5, 242)=9.00, p<.001, \eta^2=.07$ ）が有意であった。単純主効果検定を行ったところ、マンガ群における児童ポルノコミックの利用経験の有無（ $F(1, 242)=7.61, p<.01$ ）およびアダルトビデオ群における児童ポルノコミックの利用経験の有無（ $F(1, 242)=70.38, p<.001$ ）に有意差がみられた。暴行シナリオでは、児童ポルノコミックの利用経験（ $F(5, 242)=8.50, p<.01, \eta^2=.03$ ）、条件（ $F(5, 242)=13.31, p<.001, \eta^2=.10$ ）、交互作用（ $F(5, 242)=3.07, p<.05, \eta^2=.02$ ）が有意であった。単純主効果検定を行ったところ、アダルトビデオ群における児童ポルノコミックの利用経験の有無に有意差がみられた（ $F(1, 242)=13.45, p<.001$ ）。

考 察

本研究は、女兒に対する性的行為の容認態度と児童ポルノコミックの利用経験との関連について検討することを目的として行った。その結果、女兒に対する性的行為の容認態度と児童ポルノコミックの利用経験は関連があることが明らかとなった。具体的には、行為者である男性と女兒が恋愛関係にあるシナリオは児童ポルノコミックの利用経験があると容認傾向にあることが示された。また、ロリコンを自認している行為者が妹に対して性行為に及ぶシナリオおよび行為者が面識のない女兒に対して強引に性行為に及ぶシナリオでは、アダルトビデオの内容であり、児童ポルノコミックの利用経験があると容認傾向にあることが示された。ただし、暴行シナリオについては容認態度の平均値が低い。また、教師である男性が生徒の女兒に対して性行為に及ぶシナリオでは、マンガやアダルトビデオの内容であり、児童ポルノコミックの利用経験があると容認傾向にあることが示された。性的コンテンツに抵抗がない、あるいは興味があるために児童ポルノコミックを利用しているため、マンガやアダルトビデオなどの創作物であれば容認傾向にあると考えられる。また、アダルトビデオは広く一般的に広まっているため、特に容認傾向が高いと考えられる。